

平成22年度 授業アンケート集計結果考察

国語科

<生徒自身について>

予習を課すことがほとんどなかったので、教材によっては今後考えていきたい。
復習については、学習したところまでのワークブックを課すことはできるので、習慣づけたい。
学習の理解については、1・3年生は良いが、2年生が75%と低迷している。それは、宿題を忘れずにやることが75%と関係があると考える。復習の工夫とともに改善できるようにしたい。
発言は、一部の生徒への片寄りが2・3年生に認められるので、挙手以外の指名も行って活性化していきたい。
ノートまとめについては、学年が上がるにつれてポイントも上昇しているので、今のやり方を続け、まめに点検もしていきたい。

<先生の授業について>

1年生は5に相当する生徒が少なく、2年生は二極化が激しく、どこに照準を合わせた授業を開いていけばいいのかが難しい。楽しい授業、興味関心が高まる授業を常に念頭に置いて指導計画を立てていきたい。

同様に、2年生の進め方も、かなり例年より一教材に時間をかけているが、ついてこられない生徒がいる。一斉授業では解決できない問題が多い。手習い塾などを受けるべき生徒に受けさせることも今後必要なのではないかと考える。

社会科

<生徒自身について>

・授業の予習・復習については、行った方が授業への理解度が高まると生徒に伝えてはいるが、英・数の家庭学習時間を削ってまではやらなくてもよいと話している。そのあたりの正直な結果が出たように思う。積極的な発言がなかったことについては、1~2年生については授業時間に余裕があるので既習事項の確認などを中心に意識的に取り入れていくようにしたい。話を書き取る授業をしているので、慣れていない生徒の苦労があり、大変であるががんばってついてきてほしいと思う。

<先生の授業について>

・板書がていねいでないという評価が多かったが、話をどんどん書き取る授業を行っており、板書事項以上のことを書くように、普段から指示している。板書されたことをノートすることで安心できる生徒からすると、不安を感じる部分はあると思う。しかし、しだいにみな慣れてきて、ノートを書く力がついてきていることは、ノートをみるとよくわかる。

平成22年度 授業アンケート集計結果考察

数学科 T 1

<生徒自身について>

- ・各学年とも授業の準備やチャイム着席等きちんとできている。
- ・授業中の発言は少ないので発言できるような授業の工夫が必要である。
- ・授業内容の予習・復習の定着が見られないので、家庭学習の習慣に向けた指導をしていきたい。また、宿題等を増やしていきたい。

<先生の授業について>

- ・授業の進み方に課題がある。特に3年の授業では遅かったように思えるが、週4時間になったので12月の2週目には教科書内容が終了してしまった。
- ・さらなる授業の工夫（説明の仕方や板書など）が必要と感じた。
- ・評価・評定に関してはおおむね妥当なものであった。

数学科 T 2

<生徒自身について>

良かった点

- ・授業中は集中し、こちらの質問に対して考えようとしている。
- ・宿題の定着が9割ほどになり、少しずつ良くなっている。

改善すべき点

- ・授業中の積極的発言が少ないので、授業の進め方の工夫が必要
- ・授業の予習、復習が定着し切れていない。宿題をもっと増やし、家庭学習の習慣を身につけさせていきたい。
- ・宿題の定着率10割を目指す。

<先生の授業について>

良かった点

- ・興味・関心をもって授業を受けている。
- ・何を学ぶか、説明もわかりやすくはっきりさせる授業ができた。
- ・生徒の質問にきちんと対応していると感じてくれている。
- ・さまざまな生徒に飽きさせる時間を作らないように教材を工夫した。

改善点

- ・2年生の授業の進め方の肯定率が低い。授業の進め方をもっと簡潔にし、ポイントを押さえ、個人個人の状態を見る時間を増やしたい。
- ・板書の面でもっと分かりやすいような工夫を考える。

平成22年度 授業アンケート集計結果考察

数学科 T 3

<生徒自身について>

- ・忘れ物が多い(2A・2B)ので、常に注意をし、改善させる。
- ・集中しない、取り組まない生徒が減るように、授業内容の見直しをする。
- ・チャイム着席の指導を徹底させる。
- ・私語など授業と関係ないことは、すぐに注意する。

<先生の授業について>

- ・説明を短くし、目的が明確になるような、解説を心がける。
- ・生徒の理解度に合わせた、課題を設定する。
- ・電子黒板を使い、興味・関心がわく授業づくりをする。
- ・板書計画をもっと練る。

理科 T 1

<生徒自身について>

予習が低いように思われるが、予習してしまうと実験結果がわかつてしまい、自分で発見した感動がなくなることがあるので、低いから悪いというわけではない。

しかし、復習してこない方が問題だと考える。

宿題の出し方なども工夫していこうと思う。

<先生の授業について>

なんといっても板書をていねいに書くことを心がけようと思う。図を書くときはていねいだが、通常の板書はていねいさに欠けるがあるので、ていねいに書くようにする。

平成22年度 授業アンケート集計結果考察

理科 T 2

<生徒自身について>

<良かった点>

- ・話を聞こうという姿勢があること。
- ・質問に対して自分なりの答えを考えようとしているところ。
- ・授業に臨む環境を整える努力をしているところ。

<改善点>

- ・発言させる工夫をもっとしていく。

<先生の授業について>

<良かった点>

- ・評価について正当性がでているところ。
- ・説明・板書をわかりやすく工夫しているところ。

<改善点>

- ・授業ごとのねらいをさらに明確にしていく。
- ・理科だからこその楽しさ、興味深さを伸ばすための工夫を取り入れていきたい。

音楽科

<生徒自身について>

ほぼ意欲的に参加し、1学期より授業に対する意欲が向上している。しかしながら、持ち物、授業態度に問題がある生徒がいるので、改善させてていきたい。

<先生の授業について>

週一時間で、どうしても教師主導になりがちなので、さらにリーダーを育成していくこと、自分の考えを発言させる授業にしていきたい。

活動量は、子どもによって差が出るので、一人一人をもっと刺激し、意欲的に授業が楽しめるように工夫していきたい。

平成22年度 授業アンケート集計結果考察

美術科

<生徒自身について>

良かった点は、チャイム着席や準備を生徒自身が心掛けている点です。

改善すべき点は、授業内容の予習・復習や「解き方や考え方を工夫してノートにまとめている」の数値が低かったので、今どんなことをしているのかを生徒が実感できるよう、スケッチブックにこまめに記録をつけたり、今までどんな事をしたのか振り返る機会を作る。それから、これからどんな事をするのか、プリントを配布するなどして改善していきたいと思います。

<先生の授業について>

良かった点は「生徒の質問や発言にきちんと対応してくれる」という数値が高かった点です。

改善すべき点は、「技術向上のポイントがわかる」という数値が低かったので、参考となる作品を見せたり、技術向上のポイントがわかるように、全体へ実際に作るところを見せる、アイデアが広がるような助言をするなどして改善していきたいです。

また、私自身も重要な点を整理して、今日は何を学ぶのかはっきりさせながら生徒に伝えることが大切だと思いました。

保健体育科

<生徒自身について>

特になし

<先生の授業について>

技術向上のポイントをもっと生徒にわかりやすくするため説明の工夫をしていく。

平成22年度 授業アンケート集計結果考察

技術科

＜生徒自身について＞

- ・生徒への発問など発言する機会が少ない。前回の復習の場で生徒に発言させる機会を増やしていければ、学習したことの理解の向上と定着につながると考えられる。

＜先生の授業について＞

- ・ものづくり分野、情報分野とともに、関心は高く興味は持っている生徒が多い。工具やコンピュータを使う場面を多くしている効果と考えられる。
- ・ものづくりの分野では工具を、情報の分野ではコンピュータを使う場面をなるべく増やすよう心がけてはいるが、1年生ではコンピュータでの活動量が少ないと感じているようである。生徒の技量に個人差の大きいコンピュータを使用するに当たり、技量の高い生徒が増えてきている昨今では、それらの生徒は物足りなさを感じているのかもしれない。基礎をしっかりと身につけないといけない生徒への配慮もしながら、技量の高い生徒に対する課題の工夫が必要になってくる。

家庭科

＜生徒自身について＞

「学習したことが理解できている」の項目の肯定率の低さが、授業をわかりにくくないと、生徒が感じていることをあらわすと考えられる。

授業の内容がワークなどで復習しやすいように配慮したい。

＜先生の授業について＞

全体的に2の評価が多く、生徒にとってわかりにくい授業が多かったのではと危惧される。

家庭科ででてくる用語一つ一つの解説からもっとていねいに行っていきたい。毎回の授業の目的をはっきりと明示し、1時間のどこまで終わらせるかなどの生徒の目的意識もしっかりとつけていけるようにしたい。

平成22年度 授業アンケート集計結果考察

英語科

<生徒自身について>

- ・特に2年生の肯定率がどの項目においても低い。予習よりも復習することを奨励しているので、宿題をもっと徹底的にやらせるようにしていきたい。
- ・発言に関しては、クラスによってまったく反応がないところもある。英語を自由に発話できるような雰囲気作りを心掛ける。
- ・各学年ともチャイム着席に対する意識が高く、きちんと授業を始めることができた。

<先生の授業について>

- ・進度について課題が残る。到達度が高い生徒、低い生徒はそれぞれ不満に思うと思う。個人の演習ならば量で調整できるが、クラス一齊に課題に取り組む場合はそうはいかず、難しいところである。
- ・1年の授業は、小学校との連携を図り、説明以外はすべて英語の授業で行い、英語日直を設けるなど生徒の自己表現の場を多く作っているが、それを楽しく理解しやすい授業へと発展させたい。
- ・評価・評定についてはおおむね妥当であった。
- ・ビデオ教材やP Cソフトなど視聴覚教材は効果的であると感じた。